

2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第2戦
2017 NGKスパークプラグ 鈴鹿2&4レース
三重県・鈴鹿サーキット (1周=5.821km)
■渥美 心 JSB1000 予選:10番手(タイム:2分08秒667) 決勝:11位
天候:2017年4月22日(土) 晴れ コース:ドライ
4月23日(日) 晴れ コース:ドライ
観客動員数: 56,000人(2日間合計)



080 渥美 心 Cocoro Atsumi
class : JSB1000
machine : Honda CBR1000RR

6 岡崎 静夏 Shizuka Okazaki
class : J-GP3
machine : TSR3

JSB1000ライダーとして 一步を踏み出す

不安定な天候に悩まされた開幕戦筑波から2週間後に行われた第2戦鈴鹿2&4レースは、雲一つない快晴の下で決勝レースが行われた。全日本ロードレース選手権は、最高峰のJSB1000クラスの初戦となり、UQ & テルル・Kohara RTからは、渥美心がエントリーした。渥美は、昨年までJ-GP2クラスを戦い、JSB1000クラスにフル参戦するのは、今シーズンが初めて。鈴鹿8耐に参戦したことはあるが、1000ccのレースに単独で出場することは、もちろん初めてとなる。マシンは、ニューモデルのHonda CBR1000RR SP2ではなく、実績のある昨年モデルCBR1000RRを使用し、JSB1000ライダーとして経験を積むことを第一に渥美は、シーズン開幕前から走り込んで来た。実際、チームメイトであり、大先輩でもある秋吉耕佑は、ニューモデルの初期セットアップに苦戦。ベテランでも苦労する状態だっただけに、チームの判断は、いい方向に行ったと言えるだろう。



レースウィークは、木曜日の特別スポーツ走行からスタート。今回の鈴鹿2&4レースは、レース距離が200kmと1周約5.8kmの鈴鹿サーキットを35周する長丁場。鈴鹿8耐の1スティントは、約20周というところ。当然、ガスチャージのためのピットインが必要になり、チームにとってもピット作業を素早くこなしてライダーをコースに戻さなければならない。

渥美は、セッション毎に着実にタイムを縮めながら、マシンセットを詰めて行き、公式予選では2分08秒667の自己ベストをマーク。何とダンロップ勢ではトップグリッドを獲得する。



レースはセミ耐久らしくライダーがマシンに駆け寄るル・マン式でスタート。好スタートを決めた渥美だったがオープニングラップのスプーンカーブ立ち上がりでアクシデントが発生。転倒車両がコース上に残ったためにセーフティーカーが導入される。この間、

チャンピオンの中須賀選手が転倒するなど、レース序盤にアクシデントが発生する。リスタートした後は、10番手回りをコンスタントに走行。1スティント目の終盤にシケインで転倒するが、素早くマシンを起こし再スタート。幸いマシンにダメージもなく、そのまま走行を続けピットイン。レース終盤は、生形選手とのバトルとなり、最後までチャンスを伺ったが惜しくもかわせず11位でチェッカーフラッグを受けた。



渥美 心コメント

「まずはJSB1000クラスに参戦できることを応援していただいている、すべての皆さんに感謝したいです。スタートは、うまく決まりましたが、なかなか思うようにペースアップできなかったのも、その辺は今後の課題です。途中転倒がありました、すぐに復帰できたので、ロスは最低限に抑えたのですが、最後のバトルに敗れてしまいトップ10フィニッシュできず悔しいです。ただ、自分のライティングがJSB1000クラスでも通用することが分かったので、自信になった部分もありました。次戦SUGOもセミ耐久となりますが、今回学んだことを生かして頑張ります」

小原 斉 監督コメント

「JSB1000クラス初戦で、よくやったと思います。決勝の転倒がなければ100点に近かったのではないだろうか。それでも、しっかりリザルトを残しましたし、デビュー戦にしては合格点です。この調子で経験を積んで行き、JSB1000ライダーのレベルに達してくるから、新型を乗るのか考えて行こうと思っています。今シーズンもJSB1000クラスの戦いが始まりました。次戦SUGOは、4クラス開催となるので、しっかり準備して各クラス、各ライダーが力を出し切れるように全力を尽くします」